

会 議 結 果

会 議 名	令和元年度 第1回西尾市地域自立支援協議会
日 時	令和元年6月21日（金）午後2時00分～4時15分
場 所	西尾市役所本庁舎 22AB 会議室
出 席 者	別紙委員16人（欠席者3人：岡田委員、山本委員、磯貝委員） 中島地域支援部会長、藤田子ども部会長、福岡就労支援部会長、岡田権利擁護部会長 事務局…福祉課（岩瀬部長、酒井課長、杉浦補佐、白木主査、太田主査） 西尾市社会福祉協議会相談支援事業所（岡田初美、岡田智子）、相談支援センターあると（伊澤、牧野）、めだか工房相談支援事業所（福田、中山）
傍 聴 者	0人
主 な 議 題	（1）平成30年度相談支援事業実績について （2）平成30年度地域活動支援センター事業実績について （3）平成30年度担当者部会実績及び令和元年度担当者部会活動方針について （4）平成30年度相談支援事業所連絡会実績及び令和元年度相談支援事業所連絡会活動方針 （5）令和元年度地域自立支援協議会体制について （6）第5期障害者福祉計画（平成30年度障害福祉サービス評価）・第1期障害児福祉計画（平成30年度障害児通所支援事業評価）について （7）その他
結 果 等	<p>（1）平成30年度相談支援事業実績について</p> <p>○西尾市社会福祉協議会相談支援事業所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢別の相談としては、18歳以上共に前年度比1.3倍になっており、年々増加している。18歳未満については、家族単位での支援が必要になっている。18歳以上については、障害者雇用の関係で就労についての相談が増えている。 ・社会福祉協議会としては、身体障害者を中心に対応しているため、身体障害と重症心身障害を合わせると相談全体の88%になる。 ・相談者、介護者が共に高齢化しており、親なき後の不安の相談や介護者の受診や介護保険を勧めることも多くなってきた。65歳へ到達され、介護保険への引継ぎケースも増えてきている。 <p>○相談支援センターあると</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18歳以上からの相談件数が18歳未満からの相談件数より多い。総相談件数のうち6割が18歳以上からの相談となっている。近年では18歳未満の相談件数も増加傾向にある。 ・相談者は知的障害児者の相談が7割を超えている。ここ数年、発達障がい児者の相談も増えており、総相談件数のうち2割を超える状況である。 ・福祉サービスの利用等に関する支援（42.3%）が最も多く、次いで不安の解消・情緒安定に関する支援（14.0%）、家族関係・人間関係（10.0%）に関する支援の順となっている。 <p>○めだか工房</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談者の内訳は、18歳以上が99.9%、18歳以下は0.1%以下となっている。 ・相談の主たる対象を精神障害に置いてきたこともあり精神障害が72%を占めている。発

達障害が前年度 498 件であったが、今年度は 796 件と約 300 件増えている。他の障害の相談数は前年度と変わらない。

- ・支援内容の総数が 7,147 件、前年度に比べて 649 件増となっている。増加したのは福祉サービス利用 293 件、生活技術 151 件、就労に関する支援 215 件である。福祉サービスの利用、生活技術支援が突出しているが、他の項目について大きな差がない傾向となっており、当事者本人・家族の医療を含む生活全体に目を向けた支援を行っているためである。

(2) 平成 30 年度地域活動支援センター事業実績について

- ・前年度と比較すると延べ人数は 440 人減、実人数 14 人増となっているが、フリースペースの開所日数が前年度より 9 日減を考えると利用者数に大きな変化は見られない。
- ・前年度と今年度の生産活動、創作活動数に変動があるが、花もちづくりを今年度から創作活動から生産活動に変更したことによるものである。前年度と比べ月別の利用者数の差があるが、年間利用者数に大きな変化は見られない。
- ・1 日平均の利用者数が 39.1 人。地活センターの定員が 20 名だが、その倍の人数が通所している。建物も駐車場も手狭になってきており、駐車場の確保は緊急の課題となっている。

(3) 平成 30 年度担当者部会実績及び令和元年度担当者部会活動方針について

◎平成 30 年度担当者部会実績…3 月開催の協議会で報告のとおり

◎令和元年度担当者部会活動方針

○地域支援部会

- ・福祉避難所については本人、家族も知らない人が多いため、ワーキングチームにて市民に分かりやすい福祉避難所マップを作成し、周知方法を検討していく。
- ・高齢障害者支援を取り巻く課題について、長寿課と連携し、「障害者福祉サービス支援から介護保険への移行」についての支援者側の勉強会を開催していく。

○子ども部会

- ・西尾市子どもサポートブックについて

昨年度、周知・普及の為、日中一時支援事業所及び放課後等デイサービス事業所に対してサポートブックの研修会を行った。今年度も引き続き周知・普及を行っていく為に、教育関係者や医療関係者等に向けてどのように啓発を行っていくか検討していく。

- ・医療的ケア児支援協議会について

今年度、愛知県が実施する医療的ケア児者実態調査の動向を加味しながら、必要に応じてワーキングチーム会議の設置・開催を検討していく。

○就労支援部会

- ・昨年度取り組んだ仕事の切り出しについての報告を行い、今年度はチラシ等周知方法を改善しながら、継続して取り組んでいくこととした。経過に関しては、部会にて随時報告をしていく。

- ・福祉課と西尾公共職業安定所より、市内の就労に関するデータの報告をしていただいた。それに加え、委員の方々から各関係機関における課題を出していただき共有を行った。

意見として、就労支援事業所から一般就労へのステップアップについてや作業種目の狭さ、共同受注についてなど、就労継続支援事業所の在り方についての課題が多く挙げられたため、今年度ワーキングにて検討していく。

- ・ローズの会で行う事業所説明会への協力の依頼があったため、どのような協力が必要か

確認を行いながら協力していく。

○権利擁護部会

- ・ 障害者虐待の現状、成年後見制度利用状況、成年後見センター事業実施状況及び日常生活自立支援事業実施状況等の報告、また、障害者差別解消相談実績の報告、不当な差別的取り扱い、合理的配慮の提供等の事例の提供を行っていく。
- ・ 協議が必要な場合においてワーキングを設置して協議していく。
- ・ 手話言語条例制定についての検討

(4) 平成 30 年度相談支援事業所連絡会実績及び令和元年度相談支援事業所連絡会活動方針

- ・ 基幹相談支援センターについて、1 か所のセンターを市や事業所が設置する案や、地域や障害により複数の事業所を指定する案など、設置について検討した。
- ・ 基幹相談としての機能を受けるため委託をされても、人材の確保ができないという意見もあり、設置に向けた課題は多い。

(5) 令和元年度地域自立支援協議会体制について

令和元年度西尾市地域自立支援協議会組織図、西尾市地域自立支援協議会設置要綱の説明

(6) 第 5 期障害者福祉計画（平成 30 年度障害福祉サービス評価）・第 1 期障害児福祉計画（平成 30 年度障害児通所支援事業評価）について

- ・ 福祉施設の入所者の地域生活への移行については、平成 30 年度に 3 人が施設入所からグループホームに移行した。引き続き、地域移行を推進していくには、地域での受け皿となるグループホームを始めとした住居の確保と、一定期間、自立した生活を目指すための訓練を行う施設の利用など、段階的に地域での生活へ移行を行うとともに、地域移行を利用しやすい制度の整備が重要である。
- ・ 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築については、目標年度である平成 32 年度末までに、引き続き市単独での整備に向けて、必要な機能について検討していく。
- ・ 地域生活支援拠点等の整備については、平成 30 年度に西尾市障害者緊急時受け入れ事業実施要綱を策定し、地域生活支援拠点機能の一つである「緊急時の受け入れ・対応」は整備できた。
- ・ 福祉施設から一般就労への移行等については、平成 30 年度の実績値は 29 人となっており、前年度の実績と比べると 2 人増加している。これは障害者雇用促進法の施行などとともに、就労系事業所による一般就労に向けた支援によるものと考えられる。

(7) その他 <西三河南部西圏地域アドバイザー 所感>

西尾市の障害者福祉が進んでいることがよく理解できた。刈谷市では福祉避難所の議論が進んでいない。ローズの会と自立支援協議会との連携など、興味深く聞かせていただいた。基幹相談支援センターが設置されれば、相談支援体制が更に充実する。相談支援体制の充実、地域の障害者福祉の充実の要になってくる。今後検討が進むといいと思えた。